



# 永明延寿の

## 『宗鏡録』

柳 幹康

みなさん、こんにちは。花園大学の柳幹康と申します。この度貴重なご縁をいただき、本号より「禪が伝える心の鏡」と題し、『宗鏡録』について連載させていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

この『宗鏡録』という書物は、今日の日本ではあまり知られていませんが、東アジア全域に伝播した禅宗の豊かな内容を知るうえで、とても重要な書物です。おそらく「禅」と聞けば多くの方が「不立文字」——文字の教えを立てない——という言葉を思い出されるのではないかと思えますし、これはもとより禅の重要な主張ではありますが、禅はそれだけに限定されるものではありません。歴代の禅僧たちは、真理は言葉でとらえられないと説く一方で、その真理を指し示すために数多くの言葉を残してきました。これからお話しさせていただきます『宗鏡録』も禅僧が残した言葉のひとつです。

『宗鏡録』は一言でいえば、読者を悟りに導く書物です。いまから時を遡ること約一千年、永明延寿（九〇四―九七六）という中国の禅僧によって編まれました。その書名について作者の延寿は次のように説明しています。

一心が宗（おおもと）であり、それはあたかも鏡のようにあらゆるものを映しだす。古の教説という宝の蔵から深く円かな言葉をあまねく集め、等しくここに記してそれを明かす。そこでこの書を「録」と言うのだ。（宗鏡録序）

つまり『宗鏡録』とは鏡のごとき宗の一心を明かすために仏典の要文をもらさず録した書物の意で、その一心とは禅宗が伝えてきた心——本来仏である私たちの心——に他なりません。そしてこのような心を読者に示

し、そこに立ち返らせようというのが、『宗鏡録』のねらいです。この点について延寿は次のように述べています。

端的にいえば『宗鏡録』の主旨はふたつである。ひとつめは頓悟し宗を知るのと、ふたつめは円修して為すべきことを為すことである。（『宗鏡録』巻四〇）

ひとつめの「頓悟し宗を知る」とは、仏教の核心たる一心——仏である己の心——を看とること、ふたつめの「円修して為すべきことを為す」とは、その仏たる心に基づき仏として行為することを指します。つまり『宗鏡録』は、読者を開悟に到らせる禅の実践的な宗教書なのです。

禅が伝える心を皆に開示するこの書物は、その後今日にいたるまで無数の人々を惹きつけてきました。

中国において『宗鏡録』は仏教の正しい教えと公認されて、その一大聖典集たる大蔵經に収められ、代々読み継がれていきます。時を経るにつれて『宗鏡録』の評価は高まり、後には天下の最高権力者たる皇帝から「中国仏教史上最高の聖典」と絶賛されるにいたります。

また朝鮮半島にも早くに伝わり、それを読んで感動した時の高麗国王は僧侶を派遣して延寿のもとで学ばせ、その法を自国に伝えさせています。近年では韓国の現代仏教を代表する禅僧性徹（一九二二—一九九三）が『宗鏡録』を「竜樹以降最も偉大な著述」と讚え、その主旨たる頓悟・円修を出家者の歩むべき道としました。

さらに我が国においても『宗鏡録』は、臨済宗の禅僧を中心に広く受容されています。古くには栄西（一一四一—一一二五）・円爾（一一二〇—一一二八〇）・夢窓疎石（一一二七

五—一三五二）といった鎌倉・室町期の名だたる禅僧が『宗鏡録』を引用ないし重視し、近くでは白隱（一六八六—一七六九）や仙居（一七五〇—一八三七）も閲覧しています。とくに円爾は『宗鏡録』を時の天皇や関白・高僧に講じ、その進講を受けた後嵯峨天皇は一心を悟ったといえます。

かくも広範にわたり、かくも重視されながら、いつしか日本では忘れ去られてしまった『宗鏡録』——その豊かな思想と不思議な受容史について次回以降詳しく見てまいります。

柳幹康（やなぎ みきやす）

一九八一年栃木県生まれ。二〇一三年東京大学大学院博士課程修了、博士（文学）。現在花園大学国際禅学研究所専任研究員・専任講師。著書に『永明延寿と『宗鏡録』の研究——一心による中国仏教の再編』（法藏館）。

# お願い

## 花園俳壇・花園歌壇

俳壇・歌壇への投稿は、それぞれ別の官製はがきを使用し、各三句(首)までを読みやすく書いてお送りください。

\*ㄨ切りは毎月1日です。

## 花園へのご意見・感想など

本誌へのご意見・感想など、「編集室花園係」までお送りください。お待ちしております。

送り先

〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町64  
妙心寺派宗務本所内編集室  
俳壇／歌壇／花園 係

\*住所、氏名を必ずお書きください。

\*俳壇・歌壇ともに作品は未発表のものに限ります。(他誌投稿作品、転載は不可)

\*なお投稿はお返しいたしません。

**花園**  
hanazono

「いつもココロに花園を」  
あなたとわたしのポケットエッセイ集

- 【花園】第67巻 第4号(通巻第788号)  
平成29年4月1日発行(毎月1日発行)  
定価55円
- 【発行人】栗原正雄
- 【編集人】山本高明
- 【印刷人】阿部乙彦
- 【発行所】〒616-8035 京都市右京区花園  
妙心寺派宗務本所 教化センター  
振替／01060-9-1400番  
電話／075-463-3121番

表紙の絵

「ふーっ」



小さい頃は上手く「ふーっ」ができない  
ものです。初めて綿毛を飛ばせた日の  
感動はいかばかりだったでしょう。

絵・SAYOKO

妙心寺派ホームページ…………… <http://www.myoshinji.or.jp>  
臨黄ネットワーク(臨済宗・黄檗宗全般)…………… <http://rinnou.net>

『花園』誌一冊送りの年間購読料は、1,560円(送料込)です。  
お申し込み・お問い合わせは頒布課まで。

\*乱丁、落丁本はおとりかえいたします。